

数値指標 新旧対照表

指標番号	計画の目標	目標の達成状況を測る指標			
		指標の視点	変更前 (H27 現況値→H33 目標値)	変更後 (H27 現況値→H33 目標値)	目標値設定の考え方
計画全体に対する数値指標					
数値指標①	—	路線バス及びコミュニティバス全体の利用者数	主に町内移動を担う路線の年間利用者数 (9,650 人/年→10,000 人/年)	主に町内移動を担う路線の年間利用者数 (9,650 人/年→15,000 人/年)	美里町第2次振興計画との整合を図る。 (なお、第2次振興計画では類似する他自治体の事例を参考に公共交通利用者の増加率を設定。)
			主に町外移動を担う路線の年間利用者数 (30.5 万人/年→30.8 万人/年)	主に町外移動を担う路線の年間利用者数 (30.5 万人/年→30.5 万人/年)	
② 数値指標	—	公共交通に対する満足度	町の公共交通サービスに対する高評価の割合の平均値 (13.8%→16.8%)	町内の公共交通サービスに対する満足度 (14.0%→現状よりも増加)	定量的な目標値の設定が困難であるため、現状よりも上回ることを目指す。
各目標に対する数値指標					
指標	目標1に対する	日常生活を支え、町に活力を与える拠点の形成	各地域拠点のバス停留所の乗車人員数 (420 人/月→440 人/月)	各地区拠点のバス停留所の乗車人員数 (5,410 人/年→7,200 人/年)	地区拠点の機能充実と各集落と地区拠点を結ぶネットワーク構築を図ることで、地区拠点に集まってくる人を増やしていくことを目標にする。(計画全体に対する数値指標①との整合を図る)
る指標	目標2に対する	移動しやすいネットワークの構築	バス停上屋設置箇所数 (3 箇所→10 箇所)	バス停上屋設置箇所数 (3 箇所→10 箇所)	公共交通の利用環境を改善していくために、バス停の上屋を新たに7箇所設置することを目指す。

指標 番号	計画 の目標	目標の達成状況を測る指標			
		指標 の視点	変更前 (H27 現況値→H33 目標値)	変更後 (H27 現況値→H33 目標値)	目標値設定の考え方
目標3 に対する 指標	わかりやすさ、 利用しやすさの 向上	公共交通のわ かりやすさの 改善状況	美里町ホームページでのバス情報の 閲覧数 (一回/月→100回/月)	運行情報等がネックとなって利用を敬遠 している人の割合 (5.9%→3%) ※住民アンケートにおいて、公共交通を 利用しない理由に「時刻表や運賃、乗り 方などがよくわからない」を回答してい る人の割合を用いる	公共交通に関する情報の充実を図ること で、運行情報等がネックとなって利用 を敬遠している人を減らすことを目 標にする。 町内の公共交通の一元化や利用環境を 改善することで、公共交通のわかりに くさがネックとなって利用を敬遠して いる人を減らすことを目標にする。
				公共交通のわかりにくさがネックとなっ て利用を敬遠している人の割合 (11.8%→6%) ※住民アンケートにおいて、公共交通を 利用しない理由に「利用できるバスや予 約乗合タクシーがあるのか、よく知らな い」を回答している人の割合を用いる	
指標 目標4 に対する	公共交通 に関する 認知度と 利用意識 の醸成	マイカー・送 迎利用から公 共交通利用へ の転換	公共交通利用率 (10.1%→12%)	公共交通利用率 (10.1%→15.1%)	利用啓発や公共交通利用環境の改善を 展開していくことで、主に公共交通を 利用したいと考えている高齢者の利用 を促進していくことを目標にする。 ※目標値設定の考え方の詳細は表下に 記載。
目標5 に対する 指標	観光需要 の取り込 み	観光施設への 公共交通のア クセス性	公共交通に関する問い合わせ件数 (一件/月→2件/月)	観光資源直近のバス停の 年間利用者数 (1,500人/年→1,780人/年)	観光施設と連携した利用促進策を展開 していくことで、各観光資源に公共交 通でアクセスする観光客を増やしてい くことを目標に、美里町第2次振興計 画でも目標値として掲げている町内の 観光入込客数と整合を取った数値を目 標値に設定する。

指標 番号	計画 の目標	目標の達成状況を測る指標			
		指標 の視点	変更前 (H27 現況値→H33 目標値)	変更後 (H27 現況値→H33 目標値)	目標値設定の考え方
目標 6 に対する 指標	地域で守り育てる意識の醸成・交流空間としての機能の確保	地域の公共交通への関与	町民からの公共交通に関する意見件数 (一件/月→10件/月)	町民からの公共交通に関する意見件数 (3件/年→6件/年)	住民が公共交通を支える取り組み等通じて、住民の公共交通への関心・関与を高めることを目標に、公共交通に関する意見が倍増することを目指す。
目標 7 に対する 指標	運行にかかるリソースの確保	公共交通の運行にかかるリソースの確保	運転士の募集に向けた取り組み実績件数 (一件→10件)	運転士の募集に向けた取り組み 支援 件数 (一件→ 累計 10件)	公共交通の運行にかかるリソースを確保していくために、交通事業者が実施する運転士の募集に向けた取り組みに対する側方からの支援を年 2 件程度実施することを目指す。

目標 4 に対する指標の目標値の設定の考え方：詳述

- ・高齢者向けの公共交通乗り方教室やバスハイクを実施することで、高齢者の利用が増加させる。特に、75 歳以上は公共交通利用者の 50% を占めるほど、各年齢層の中でも公共交通に対する関心や必要性が高く、利用促進によって高い効果が期待できる。
- ・町民アンケートにおいて、「将来の移動に対する考え（あなたが将来、高齢になり、運転ができなくなったときに、これまで自家用車で済ませていた用事をあなたは どうやって済ませますか?）」に関する質問で、計画期間 5 年のうちに 75 歳以上になる「70～74 歳」の人の 40% が将来は「公共交通を利用する」と回答。
- ・つまり、利用促進や公共交通利用環境の改善を展開していくことで、この「70～74 歳」の「将来は公共交通を利用したい」と考えている層のニーズに応じていくことを目標にする。
- ・こうした考えを踏まえ、数値としては、現在の 75 歳以上の公共交通利用率：20% が、平成 33 年度には 40% に増加する（他の年齢層は現状維持）として、町民全体の公共交通利用率を算出する。